

## 作業路で材を出しましょう！

「木を伐る、木を使う」

総合グリーンセンター 牧野憲嗣

### はじめに

今まで、材を搬出すると言えば、既設の林道や作業道沿いの道端か、簡易な架線を使ったものがほとんどでした。

しかし、道端搬出では、面積的にも材積的にも量が限られてしまいますし、架線を用いて材を搬出するとコスト高になってしまいます。

そこで、量的にもコスト的にも有利となる方法が作業路を使った搬出です。

### 作業路を架線の代わりに林内に設置します。(1 ha 当たり 200~250m程度)

#### 1. 作業コストが安くなります！

ウインチなどの集材に比べて、1 m<sup>3</sup> 当たり 5,000 円程度安くなる例もあります。

#### 2. 森林の管理がし易くなります！林内を楽に歩くことができます。



### 道を付けると山が無くなる？

道を付けると、山が無くなってしまわないかと心配される方もいらっしゃると思いますが、作業路は今までの道づくりとは違い、材の搬出を主な目的としているので伐開幅も機械が作業できるだけの範囲としています。

また、施業管理を行っている胸高直径が25cmの林分を例にすると、立木の間隔は3m程度となっているため、支障木の量について、ひどく気にすることはないと思われます。



林道や作業道の伐開幅状況



作業路の伐開幅状況

### こぼさない、持ち出さない、崩れにくい作業路づくりを目指して

道をつけることは、やはり山に傷をつけることになります。その傷が、大怪我や致命傷にならないような技術や工夫が必要です。

その方法は、いかに水を処理するか、いかに山の改変を少なくするかであると考えます。

そこで、県内においては、搬出作業システムや地形を考慮した線形配置や作業路作設の方法について研修が行われています。



### おわりに

以前にも本誌において記載しましたが、低コストで材を搬出するには、作業路や機械を活用した方法が有効ですが、これを実現するには施業地の集団化が絶対条件になります。

本県の一人当たりの森林所有規模を考えると所有者みなさんの合意形成が非常に重要となります。